

5歳の笑顔が、未来をつくる

Children, Our Future

子どもたちの明日

106号

幼い難民を考える会(CYR)は、難民となったカンボジアの子どもたちが懸命に生きようとする姿に感銘され、1980年に設立されました。子どもたちが心身ともに健やかに成長し、その保護者が人間的な生活環境のもとで自立できることが、難民を生み出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。2011年からは、東日本大震災の被災地で支援活動を行っています。



2013年5月25日

活動報告会を開催しました

幼い難民を考える会 事務局長 峯村里香

子どもの存在は未来に向かって開かれている。33年前の難民キャンプで、カンボジアで、生きる権利さえ危うくされた子どもたちに心安らぐ場をと私たちは願い、活動を続けた。「会」は相手を助ける組織ではなく、助ける相手が自立できるような協力をする。CYRの基本姿勢だが、支えに徹するのは容易ではない。カンボジアの人が自ら考え進めていけるよう知恵を出し合い、日本人の思いを抑えて待つ。約140名のカンボジア・タイ・日本人職員による試行錯誤の繰り返しだった。

今年の活動報告会第1部で、カンボジア事務所所長代行のチャン・スレイは語った。「CYRの限りある資金と人材で、より多くの子どもに教育を受けるチャンスを与えたい。」彼女の言葉で語られる、幼児教育の大切さ、平和への願いを聞き、CYRが次の段階に近づいていると実感した。真に、カンボジアの人たちによる活動がいよいよ始まる。

第2部では、宮城で子どものために働き続ける小林純子さん(災害子ども支援ネットワークムヤギ代表世話人)のお話を伺った。震災後、私たちはすぐ考えた。海外での経験を、日本で子どもたちのために活かそう、地元の人々の気持ちを大切に、ボランティアと共に活動しよう。続々と届いた支援者の声、資金協力は大きな励みとなった。被災地への遊具づくりには延べ約700名が参加した。民間団体とボランティアの活躍が社会に訴える力は益々大きくなる。仲立ちとなるCYRが目指す組織、その役割と責任は何かを、会員・支援者の声に耳を傾けて考え、実行していく。

※ 報告会での発表の全文は、CYRのウェブサイトでご覧いただけます(<http://www.cyr.or.jp/> 近日公開)

【第1部】ふやそう!「村の幼稚園」

カンボジアでは珍しい一日保育の実践というCYRの支援活動は、今年で22年目を迎えました。私たちはこの経験と実績を活かし、半日保育を行う「村の幼稚園」を3園、新たに開設することにしました。幼児教育を広めたい政府の取り組みにも関わらず、現在、3歳、4歳児の2割程度しか就学前教育を受けていません。どうしたらもっと、保育支援を広げることができるのか……。安価に開設・運営が可能な村の幼稚園は、模索を続けてきた私たちがたどりついた結論のひとつです。

短時間保育でも、子どもたちの成長は目ざまし

い!現場を視察してそう感じた私たちは2011年、2カ所に村の幼稚園を開設しました。しかし、いくつか課題が見えてきました。一つは、給料不足で先生が辞めてしまうこと。もう一つは、子どもたちの出席率の伸び悩みです。先生の給与は、CYRと幼稚園がある地区が負担します。出席率の問題は、早朝から仕事に出かける保護者が、子どもを家に置き去りにしてしまうことが原因です。日中、大勢の子どもたちが保育や教育を受けずにいる。将来が心配になります。

こうした問題が起きないように、新しい幼稚園の開設に関しては、地区の住民や小学校の先生・

次ページへ続く

前ページからの続き

保育の先生候補と一緒に計画を進めています。CYRの支援は3年間で、4年目以降は地域が運営を引き継ぐことも決めました。

初年度の経費は、1カ所あたり17万円。先生の給与・研修費、教材費、備品費、月2回の軽食費等に充ちます。3年目は7万円で、給与のみとなります。この経費で、20~30名の子どもの支援が可能です。

カンボジア事務所の職員による検討の結果、視察に訪れた8カ所の村から「3年後に自分たちで幼稚園を運営できる」と言った3村を選びました。

幼児期は、人間の基礎がつくられる大切な時期です。この期間に、集団生活を通じて友だちと仲良く過ごす。互いを思いやり協力することで、平和な心を養う。それが、私たちの望みです。そして、村の幼稚園に通う我が子の成長が、保護者の教育意識を変えていく……。もしカンボジアの子どもたちが全員、幼稚園に通えるようになったら、将来はきっと本当の意味で発展した国、平和な国をつくれるでしょう。より多くの子どもに教育を受ける機会を与えたい。そのためにもっと多くの、村の幼稚園をふやしていきたいです。

【第2部】震災を越えて ~子どもたちの未来のために~

◆ 小林 純子 氏 プロフィール ◆

- 1979年 長女2歳の時、「子ども劇場」に参加
- 1998年 MIYAGI子どもネットワーク設立
- 2001年 チャイルドラインみやぎ設立
- 2005年 MIYAGI子どもネットワークで児童館指定管理開始
- 2011年3月 東日本大震災発生
- 4月 災害子ども支援ネットワークみやぎ設立

◆ 子どものための場所

震災直後、「子どもの広場」づくりのお手伝いをしました。避難所の子どもたちはおとなしくしていることを要求され、「子どもらしくいる」ことができませんでした。でも、広場で2時間過ごすうち、少しずつ平常の気持に戻っていきました。子どもたちにとって、「遊び」や「安心できる空間」は、非常時にとっても大事だと再確認させられました。

◆ CYRとの出会い

初めは「どんな団体なのだろう？」と思っていましたが、保育セットの手作り感で気持を決めました。これだけ長く深くお付き合いできたのは、子育て支援に対して同じ視点を持っていたからだと思います。たくさんのNGOが入ってきましたが、自分たちの事業の目的が優先されているという団体もありました。現地では、状況が刻々と変わります。それを「理解して」「聴いて」「待つ」という姿勢がCYRにはありました。

◆ 託児室の必要性

震災で傷ついた沿岸部から多くの人が仙台に転入すると予想し、託児室「ピッコロルーム」を開設しました(2011年)。一番大変だったのは、心を病

んでいるお母さんたちの支援でした。無料で子どもを預かってあげられたのも、CYRの支援があったからと思います。

◆ 地元の力を生かした事業を

被災から2年、撤退する団体が増え資金不足が問題となっています。状況を見越して宮城県に助成制度をつくってもらいましたが、上限の100万円では不十分です。そうした状況でも、例えば保育セットのような「物」が残っていれば、誰かがもう一回始めることができます。託児室ピッコロとポルカ(2012年開設)では、被災した人たちをトレーニングして働いてもらっています。イベント等も開催して、子どもと親と一緒にサポートしています。皆、必要とされることでやる気が出、生きがいにもなっています。

◆ **結び:** 自分たちだけでいると、気持がくじけてしまいます。でも、誰かが応援してくれていると頑張れるということがありません。ぜひこれからも、心で繋がって応援をいただければと思います。

◆ 質疑応答 ◆

Q: どういうところで資金不足を感じますか?

A: 例えば県の助成金です。宮城県の人には皆被災者です。でも、助成金には、仮設やみなし仮設に住んでいる人が対象という制限があります。家が壊れていない利用者が多い託児室は、助成金を受けにくいのです。

Q: CYRのスピード感(=ゆっくり感)等について、もっとスピードを上げてほしいということはありませんか?

A: ありませんでした。スピードを要求する団体もあります。でも、現場は頑張れないときもあります。他にも、地域の文化等に対して指導的な態度にでられたり。途上国を支援するときに私たちは、そうした間違いをおかしていないでしょうか。今後の活動に生かしていただくため、そういう時は正直に気持を話すようにしました。

支援の現場から：ソーラーランタン10万台プロジェクト ～パナソニック株式会社～

「無電化地域にあかりを届ける」パナソニック株式会社のプロジェクトを通じて、カンボジアのCVR活動地域に昨年、54台のソーラーランタンが届けられました。

首都プノンペンでさえ頻繁に停電が起きる同国。他州では、電気が通っていない地域がほとんどです。曇り空や雨の日、夜間、車を持っている人は、そのバッテリーで小さな蛍光灯をともししてしのいだり、作業の手をやすめなければなりません。

そんな農村部の日常を明るく照らしてくれるソーラーランタンは、その名の通り太陽光で充電が可能。つまり、晴天の多いカンボジアでは、ほぼ毎日充電できるということなのです！保育や織物事業の現場は大助かり。

ご支援、ありがとうございました！

プロジェクトURL：

<http://panasonic.co.jp/citizenship/lantern/>



自宅で、保育遊具を作る保育所の先生(右上：カンダール州)；夜間、織物研修センターで作業する織り手(右下：タケオ州)；藍染め家族の夕飯に明かりが灯る(左上：コンボンチャム州)



日本・カンボジア友好60周年記念特別企画

よみがえる祈りの織物「ピダン」展(仮称)

4月6～8日、葉桜のみどり鮮やかな百観音明治寺(東京都中野区)で、カンボジアが誇る伝統工芸品「ピダン(絹絵緋)」の展示会が開催されました。会場となったのは、新しく建立されたお寺の会館。大勢の来場者で賑わいました。

かつて、ピダンを織る技術の伝承は、母から娘への口伝だった

ため、緻密な絵柄は図面に残されていません。また、1970年代・80年代の戦乱のさなか、作品は消失したり、国外へ流出してしまいました。CVRは、女性の経済的自立を目的とした織物技術研修に加え、この伝統技術の復興・継承も、大切な責務と捉えています。

今秋この「ピダン展」を、阪急



「ベッサンタラ太子の前世の物語」(阪急うめだ本店で展示予定)

うめだ本店でもご覧いただけることになりました(8月28日～9月3日)。お近くにお越しの際は、ぜひ、お立ち寄りください。カンボジアの伝統の奥深さ、仏教とヒンドゥー教が融合する独特の世界観に触れながら、異文化体験のひとつを過ごしてみたいかがでしょう。

CYR イベント情報

6月27～29日：ラタナセール（10時～17時）
今回は、土曜日もお店を開けます！

8月28～9月3日：
日本・カンボジア友好60周年記念 ビダン展
場所：阪急うめだ本店

ハガキ、切手ご寄付のおねがい



書き損じハガキや未使用ハガキ、未使用切手のご寄付を募っています。カンボジアや被災地への郵送料と支援者のみなさまへのお便り送付に大活躍しています。ご寄付は、寄付金控除証明書発行の対象となります。大切に活用しますので、ご協力をお願いします！

※ハガキのご寄付額は、郵便局交換手数料を差し引いた金額となります。



本サポ！ やってます



ご家庭に、読まなくなった本やCD・DVDはありませんか？
買い取り代金で、カンボジアと被災地の子どもたち・女性たちを支援することができます。お申し込みは、**本サポ！**から。ホームページ (<http://www.cyr.or.jp/>) や お電話・ファクスをご利用ください！（CYR：TEL 03-3943-6971 / FAX 03-3943-6973）。どうぞご協力をお願いします！

募金にご協力をお願いします！

CYRの活動は、みなさまのご寄付で成り立っています。カンボジアと被災地で支援活動を行うため、募金のご協力をお願いいたします。



【郵便局】
郵便振替 00110-8-36227
加入者名（特活）幼い難民を考える会

【銀行】
三菱東京UFJ銀行 六本木支店（普）1351747
特定非営利活動法人幼い難民を考える会



子どもたちの明日 106号

発行日：2013年6月5日 発行人：深水 正勝

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

〒112-0013 東京都文京区音羽 1-10-4 池田ビル 3F

TEL: 03-3943-6971 FAX: 03-3943-6973

E-mail: info@cyr.or.jp / URL: <http://www.cyr.or.jp>

幼い難民を考える会 (CYR) は認定NPO法人です。
ご寄付は税制優遇措置を受けることができます。

カンボジア子ども絵画展

1980年、タイ・カンボジアの国境に設けられたカオイダン難民キャンプ。この地が幼い難民を考える会活動の出発点です。大切に保存してきた当時の資料を、このコーナーでご紹介していきます。

内戦で両親を亡くした孤児たちが共同生活を送った施設、チルドレン・センター。そこで暮らす子どもたちが、クレヨンを手にも思いのまま描いた絵です。

ソック・チャンナー (ស៊ុក ចាន់ណា)

日本でもおなじみの、少女と花と家の絵。画面左に描かれているのは、カンボジアの農村では一般的な、高床式の家です。風通しがよく雨季の浸水を避け、虫やヘビの侵入を防ぐだけでなく、床下のスペースでは、家畜を飼ったり機を織ったり、とっても有効に活用されています。

